

# 令和6年度 アーツ前橋事業評価調書

基本事項	事業名	new born 荒井良二 いつもしらないところへたびするきぶんだった											
	会期	2024/6/29 - 8/25						開館日数	50 日間				
	会場(ギャラリー)	ギャラリー(1F+地下)						実施方式	3共同企画・分担金方式(巡回)				
	観覧料	一般	800 円				出品点数	550点					
		割引	600 円										
	担当者	学芸:宮本武典、庭山貴裕 事務:石井令奈											
	目的(一覧表)	世界的な評価を受ける絵本作家、アーティスト・荒井良二(1956-)の創作活動を紹介する。市内施設での壁画制作などを通じて荒井とのゆかりが深い前橋で、子どもから大人まで多世代に楽しみと学びの機会を提供することを目的とする。											
	キーワード	絵本 創造的人材の育成 市内施設との連携(前橋シネマハウス、前橋こども図書館、フリッツ・アートセンター)											
	他団体との連携(共催、協力等)	共催:朝日新聞社 協力:借成社、小学館、積水ハウス、フリッツ・アートセンター											
	参加作家	荒井良二、寺尾紗穂											
関連イベント	①ワークショップ「うつくしいってなに？」 6/22 ②オープニングトーク&ライブ「わたしの好きなならべうた」より 6/29 ③ワークショップ「荒井良二と物語を汲み出す人」 7/27 ④連携イベント:前橋シネマハウス 特集上映「荒井良二と映画を旅するこどもたち！」 8/10- ⑤連携イベント:前橋こども図書館 荒井良二作品おはなし会 7~8月 不定期開催												
①インプット(投入)・・・用いた資源 ②プロセス(活動)・・・戦略や手段の計画 ③アウトプット(結果)・・・実施内容、実績 ④アウトカム(成果)・・・どういう反応が得られたか ⑤インパクト・・・波及効果													
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	ポスター(B2)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録						
		1,100 部	35,000 部										
	収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)/(B)	入館者一人当たりコスト	観覧料	助成金	他					
		予算	3,000,000 円		300 円								
		決算見込	3,008,600 円		372 円								
		差額		8,600 円	-								
		予算/決算		100.3%		124.1%							
会期一日あたり(決算)	0 円	60,172 円	-	-	0 円	0 円	0 円						
② 内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要(転記) 絵本作家、アーティスト・荒井良二の絵画や絵本原画、イラストレーション、新作となる立体インスタレーションなどを通してその創作活動を紹介する。昨年より全国巡回している展覧会内容に、前橋で描かれた作品や、荒井が壁画を制作した市内施設との連携イベント等、地域独自の要素を加えて開催する。											
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成 など	・広報戦略 ・新たな試み(転記)	・子育て世代にリーチするため、チラシやポスターを県内図書館、市内保育施設等に重点配布し、特に市内施設には対面配布を積極的に実施 ・有料広告(Instagram動画)を県内および東京・埼玉を中心に配信 ・インフルエンサー招致による周知 ・市内の公立・民間施設(前橋こども図書館、前橋シネマハウス、フリッツ・アートセンター)との連携による展示・イベントの実施										
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	・Instagramリーチ数 5.1万人 ・アンケート結果では展覧会の認知媒体はウェブ・SNSが35.7%、ポスター・チラシが33.8%で、重点化した媒体の割合が高い結果となった。また、県外からの来館者が39.1%と高く、SNSによる県外周知の効果があつたと考えられる。										
		新たな試みの実績	・前橋こども図書館との連携による絵本のおはなし会(参加者総数約500名)、前橋シネマハウスによる特集上映(参加者総数約170名)、フリッツ・アートセンターの協力による資料展示(地下ホワイエ)等により、館外施設との連携・協働、事業内容の充実をはかることができた。										
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
		2,862	188	321	17	1,050	586	48	107	118	2,787	8,084	162
	有料観覧者率 42.5%	35%	2%	4%	0%	13%	7%	1%	1%	1%	34%		
	一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項							
入場・参加者数		10,000 人	8,084 人	80.8 %	総数はイベント参加者を含む G1 7966人、地下5704人、有料3408人								
展覧会満足度		90 %	96.5 %	107.2 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があつた割合(無回答を除く)								

## 令和6年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

③ 結果	事業名	new born 荒井良二 いつも知らないところへ たびするきぶんだった																					
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった( ) 開館後まで積み残しとなった事項( )																					
④ 成果	[④成果] 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	前橋市民、関東近郊の絵本愛好者、40～50代女性、親子連れ																				
		成果	アンケート結果では女性が全体の74.1%で、年齢層では40代が21.8%と最も多く、次いで50代が18.6%であった。また、10代以下が合計で19.2%と多い点も特徴的であった。前述のとおり県外からの来場者も多く、来場者の割合としては期待したとおりの結果が得られた。																				
		ねらい1 (転記)	子どもから大人まで多世代に楽しみと学びの機会を提供する																				
		成果	本展は荒井氏の作品を年代順やジャンル毎に紹介する型通りの展示ではなく、それらを敢えて混交し、多様なメディアムによる膨大な作品群の総体から「new born=日々新しく生まれる」という荒井氏のコンセプトを伝えるものであった。親子連れの来場者も多く、アンケートでは創造性を刺激される面や、展示品の多さ・多様さへの満足の声が多かった。																				
		ねらい2 (転記)	館外施設・地域住民との連携・協働																				
		成果	前橋こども図書館との連携による絵本のおはなし会(参加者総数約500名)、前橋シネマハウスによる特集上映(参加者総数約170名)、フリッツ・アートセンターの協力による資料展示(地下ホワイエ)のほか、関連ワークショップ(7/27)を地域の子育て支援団体(mam's style)のサポートにより実施する等、本事業を地域との連携・協働の機会とする																				
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を( )に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<ol style="list-style-type: none"> <li>&lt;1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載&gt;</li> <li>1.参加作家のその後の活動を評価 ⇒ 後日記入</li> <li>2.アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒ 後日記入</li> <li>3.事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価 ⇒ 後日記入</li> <li>4.事業の実施に伴う波及効果 ⇒ 後日記入</li> <li>5.地域資源の活用という点での効果 ⇒ 荒井氏が壁画制作を行った所縁ある施設や、地域の絵本読み聞かせ・子育て支援等に携わるグループと連携・協働することができた。</li> <li>6.意図せざる(思わぬ)効果 ⇒ オープニングイベントは実施協力者の提案により前橋のわらべうたを交えた演奏およびライブペインティングとなり、広瀬川の橋の上でコーラスする製糸工場の女工たちを荒井氏が描いた作品が生まれ、会期中展示されることとなった。その他の各イベントでも、創作を通じた荒井氏と地域住民との様々な交流が生まれた。</li> </ol>																					
		自己評価(担当者)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか</td> <td style="width: 15%;">1.非常に良い</td> <td style="width: 15%;">2.良い</td> <td style="width: 15%;">3.普通</td> <td style="width: 15%;">4.劣る</td> </tr> <tr> <td>合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td>2.良い</td> <td>3.普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> <tr> <td>事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td>2.良い</td> <td>3.普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> <tr> <td>社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか</td> <td>1.非常に良い</td> <td>2.良い</td> <td>3.普通</td> <td>4.劣る</td> </tr> </table>			効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い
効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る																			
合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る																			
事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る																			
社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る																			
コメント・意見	課題・改善点	広報物の配布・プレスリリース等を約1ヶ月前から開始したが、より早期に行うことでさらに周知が行き渡り、来場者増に繋がったと思われる。連携イベントの詳細確定等に時間を要したこと等が要因であったが、今後はより計画的に行うことで改善したい。また、本展は基本的に巡回展示物を当館会場に構成するものであったが、作家の現場監修により決定する部分が多く、臨時の追加工事、設営時間の増加等も生じるようになった。今後同様の企画を行う際は、設営・会場構成等に関してより綿密な事前調整が必要であると感じた。																					
	引継ぎ事項 (特記事項)																						
コメント・意見	館長 副館長	家族連れ、若年層を含め幅広い世代の来館が期待される夏期、子供から大人、アートファン、作家ファンに楽しんでいただける展覧会となった。企画内容に加え、SNS発信・SNS広告の活用やインフルエンサー活用による広報周知活動で過去のアーツ前橋展覧会と比較し、来館者数・入館料収入を確保できた展覧会となった。一方、東京100km圏・北関東地方都市における展覧会での集客に課題を感じている。引き続きの分析、対策、目標設定を検討したい。																					
	運営 評議会																						